

(対象事業：

)

事業名：僕たち古代人 古代のムラをつくろう

事業者名：千葉県立房総のむら

連携事業館名：

住所：千葉県印旛郡栄町竜角寺1028

TEL：0476(95)3333

FAX：0476(95)3330

HPアドレス：<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>



①施設概要

原始・古代から近現代までの衣・食・住・技の変遷を展示や実演によって再現し、来館者が伝統技術や生活様式を直接体験することによって学ぶ体験博物館である。昭和61年に開館し、平成4年に全施設が完成、平成16年に風土記の丘を統合した。資料館1棟、文化財建造物3棟、再現建物24棟などの施設をもつ。

②事業の意図目的

本館では、衣・食・技に関する体験は豊富に用意しているが、住とくに原始・古代のそれについては用意することが難しい。今回の事業では、古墳時代の住まいづくり体験を中心に行ったが、それに付随して発掘（確認調査）体験、古墳時代のかまどを用いた生活体験（調理体験）を行うなど、原始・古代に係る体験演目の開発を行った。

③事業概要

- 1 伐採体験 原始の石器、古代の鉄器、現代ののこぎりを用いて立木を伐採し、道具及びその使い方の歴史を学習した。
- 2 体験発掘 竪穴住居の復元を行った場所が埋蔵文化財包蔵地であったため、専門職員の指導のもとに、児童・生徒が発掘調査を実施した。
- 3 竪穴住居復元体験 専門職員の指導のもとで、古墳時代の竪穴住居1棟を児童・生徒が復元した。
- 4 古代生活技術の体験 復元した竪穴住居の中あるいは周辺で、勾玉作り、火起こしなど古代の生活技術の体験学習や古代食の試食を行った。

上記の体験学習は、栄町立酒直小学校など近隣の学校との連携の上で、さらに参加者（一般ボランティア）を募集して実施した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ ）
 作成した報告書等
 ビデオ（ ）
 冊子（ ）
 その他（ ）

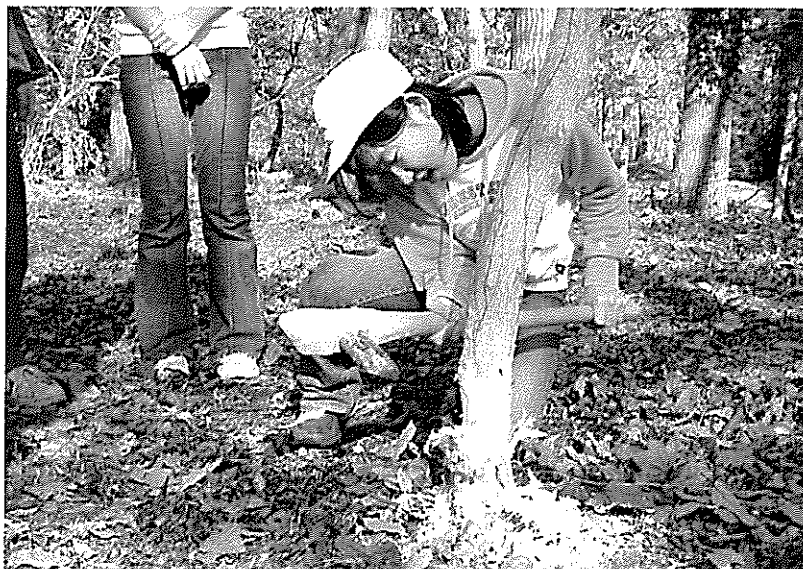
⑤参加者状況

参加者人数 延べ 302 人

内 訳 栄町立酒直小学校189人、江戸川短期大学27人、一般ボランティア86人

(1) 事業の実施状況について

まず、竪穴住居を復元する予定地に埋蔵文化財包蔵地が所在するかどうかの確認を行うため、平成16年10月20日付けで千葉県教育委員会に所在の有無の照会を行った。その結果、平成16年10月29日付けで、旧石器時代等遺物包蔵地が予定地全域に所在する旨の回答を得た。そこで、予定地内に遺構、遺物が存在するかどうかを確認するために、発掘調査（確認調査）を実施した。



伐採体験風景

今回の事業は、すべての工程を体験演目として実施している。連携して事業を実施したのは栄町立酒直小学校及び江戸川短期大学の2校である。それ以外には、一般ボランティアを公募して実施した。

確認調査に先立ち、12月8日に立木の伐採を行った。これは、予定地の整地と木材の供給を兼ねたもので、栄町立酒直小学校児童を中心に実施した。この際、ただ単に木材の伐採を行うのではなく、石斧、鉄斧、鋸の三種類の道具を用いて比較体験を行い、道具の進化、発展の歴史を学ぶことができるようにした。



埋蔵文化財確認調査風景

埋蔵文化財の確認調査は、演目の一環、発掘体験として行った。調査（発掘体験）は12月11日及び12日に実施し、江戸川短期大学の学生が主体となったほか、栄町立酒直小学校児童も加わって行った。確認調査の結果、予定地には遺構は確認されず、遺物も微量しか出土しなかったため、前述の両日で埋蔵文化財の確認調査は終了した。



掘削した竪穴

竪穴住居の復元作業は1月に入って着手した。まず、1月13日及び14日に竪穴の掘削を行った。掘削にあたっては現代のスコップ等を用いた。作業は、酒直小学校児童と一般ボランティアの共同作業で行った。竪穴掘削の完成後、床貼

り作業を引き続いて実施した。

1月18日及び19日、少数の一般ボランティアによって柱立ての準備を行った後、1月20日に柱立てを実施し、1月27日には堅穴周囲の盛土作業を行った。柱立て及び盛土作業も、酒直小学校児童と一般ボランティアが共同で行っている。

その後、かまどの設置と壁板の設置作業を1月29日から1月30日にかけて行っている。作業領域が狭く、大勢でできる作業ではなかったため、この両日は少数の一般ボランティアによって行われた。

2月10日から住居の木組みを開始した。この作業は、建築の専門家であり古建築にも造詣が深く、千葉県文化財保護指導委員でもある、岩瀬建築有限会社社長岩瀬繁氏の指導を仰いで行った。2月10日は酒直小学校児童及び一般ボランティア、2月11日及び12日は一般ボランティアのみの作業で、この3日間をかけて木組みが完成した。

木組み完成後、かやを用いた屋根葺き作業に着手した。この作業についても岩瀬繁氏の指導を仰ぎ、2月22日から24日、27日から28日の計5日間をかけて完成した。作業の主体は一般ボランティアであったが、23日については酒直小学校児童も参加している。

最後に、堅穴住居完成翌日の3月1日に、酒直小学校児童を対象とした勾玉作り、古代食等の古代体験を、3月12日には一般ボランティアを対象とした同様の体験を実施。また、今回の

作業工程のパネル展示と原始・古代の住まいにかかわる遺物、模型等の展示を組み合わせたトピックス展「堅穴住居」を4月12日から6月26日まで開催している。



一般ボランティアによる木組み作業



屋根葺き作業



完成した堅穴住居

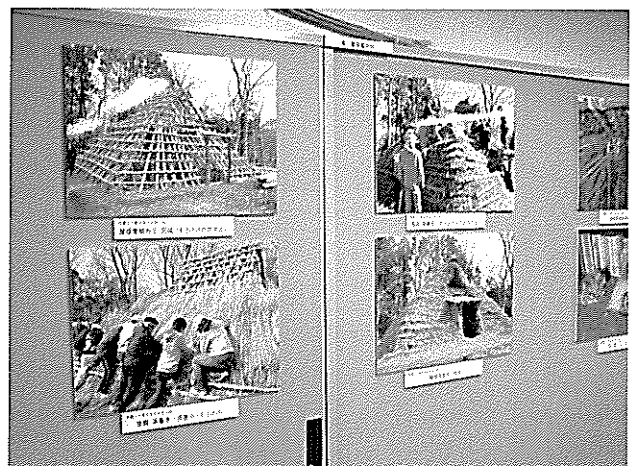
（２）地域との連携について

地域との連携については、前述のように地元小学校との連携及び一般ボランティアの募集という形で実現した。とくに栄町立酒直小学校からは全面的な協力を得、一週ないし二週に一度というペースで、都合８回にわたって６年生児童の参加を得ることができた。また、埋蔵文化財確認調査については江戸川短期大学の大きな協力が得られたことも特筆すべきであるが、江戸川短期大学学生がその他の工程、体験に参加できなかったことは残念である。

また、地元自治体である栄町および成田市は当館の活動に常に目を注いで、各種企画について広報等で紹介をしてくださっている。

（３）成果物について

歴史的な体験を主眼とした企画であり、現在のところ印刷刊行物等の成果物は考えていない。ただ、今回の成果について、住まいづくり体験を実際に行った一部の人たちだけのものではなく、より広め、復元した竪穴住居を今後も体験施設として生かしていくためにも、トピックス展「竪穴住居」を開催中（４月１２日から６月２６日まで）である。内容は、竪穴住居復元工程のパネル展示、当館以外の施設の復元竪穴住居のパネル展示、縄文時代から奈良・平安時代にわたる竪穴住居の変化と炊事施設、炊事施設と炊事具の変化に関する遺物、模型、パネルによる展示である。



トピックス展「竪穴住居」

（４）参加者の反応

酒直小学校児童にとっても、一般ボランティアにとっても、ほとんどの人が竪穴住居を作ることが初めての体験であった。児童たちは立木伐採、発掘体験から行っているが、「石で木が切れる」ことに対する新鮮な驚きを口にする児童が多かった。また、竪穴掘削、床貼り、木組み、屋根葺きについても、道具が未発達な状態でしっかりした構造の建物を建築できたことや、完成した竪穴住居の大きさ（広さ）の実感などが感想としてあがった。全体としては、工程、工法をできるだけ古墳時代に近づけて行ったことで、貴重な体験としてきわめて好評であった。

（５）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

当館は、本来近世から近代の町並みや農家を再現し、そこで行われていた生活の技を体験することを主体とした「房総のむら」と、竜角寺古墳群を中心とする史跡整備と考古資料展示を核とした「房総風土記の丘」という別個の博物館であった。したがって、両者の間には性格の差が大きく、原始古代の「建物」や「体験演目」が乏しかった。

今回、当事業を実施したことで、竪穴住居の復元工程のみの一時的な効果のみならず、町並みや農家とならぶ再現建物ができ、さらに今後継続して古代体験を実施していく条件が整ったといえることができる。